



体育祭実行委員長、副委員長にインタビュー



八中だより



第5号

令和7年6月2日

府中市立

府中第八中学校

今年度のスローガン「勝より笑」笑顔のたえない体育祭。は、とっても素敵なスローガンです。「勝」という一瞬のできごとでにこだわりすぎず、体育祭の活動そのものを存分に楽しみ、充実感いっぱい取組むことによって、皆が「笑」えるようにしようという意気込みが伝わってきます。そして、「勝つ」という結果以上に、それぞれが一つ一つの活動に意味づけをして力強く高い目標を目指して進もうとする生徒の皆さんのパワーを感じてきました。一年生からは、「初めての体育祭がとても楽しみです」「一位にこだわらず楽しみたいと思います」など体育祭を心待ちにしている声が聞かれました。体育祭の盛り上がりが冷めやらない先日、月野木 瑛 実行委員長さん、山下 琥太郎 副実行委員長さんにインタビューをしました。

【Q】(インタビュー部分は敬称略)
リーダーとしての活動 大変お疲れさまでした。「勝より笑」というスローガンでしたが、どのような価値を見出しましたか。
月野木 「勝ちにこだわらない気持ちをもち続けて笑顔で取り組むことの大切さを感じることができました。」
山下 「勝つことよりも思い出をつくることや楽しむことの大切さを実感できる取組になりました。」
【Q】リーダーという大役を担ってきた中で苦労したことは何ですか？
山下 「みんなに伝えたことが届かないことに苦労しました。」
月野木 「同じく、みんなに伝えることの難しさを感じました。」
伝わっているか確認を丁寧に行いました。」
【Q】体育祭の活動をとらえて学んだことは何ですか？
月野木 「勝より笑」の実現のためにみんなで楽しむことの大切さややり遂げることの価値を学ぶことができました。」
山下 「実行委員をまとめるという立場に立ってたくさん苦勞がありましたが、自分にとってプラスになる経験をたくさんすることができました。」

《お礼》
体育祭ではPTAの皆さんの多大なるご協力により、無事終えることができました。ありがとうございました。



ふれあい(いじめ防止強化)月間

重要
本校の「学校いじめ防止基本方針」(ホームページをご覧ください)に、左記のとおり「基本方針策定の意義」を定めています。

六月は「ふれあい(いじめ防止強化)月間」です!
その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与える。そのことによって当該生徒が登校できなくなったり、生命や身体に重大な危険を及ぼしたりする恐れがあり、このいじめ問題への対応は学校における最重要課題の一つであると捉える。府中市立府中第八中学校いじめ防止基本方針は、いじめの問題から一人でも多くの生徒を守るためにも「いじめは絶対に許されない」、「いじめはどの学校、どの学級でも起こり得る」という認識に立って、学校・家庭・地域住民・関係機関と緊密に連携し、いじめの未然防止、早期発見・早期対応、重大事態への対処のための対策を総合的かつ効果的に推進するために定めるものである。

「ふれあい月間」には、いじめ等の問題行動の早期発見・対応や未然防止につながる具体的な取組、スクールカウンセラーによる全員面接(一年)、アンケート、全校集会や学年、学級でのいじめ防止等に関する啓発、SOSの出し方に関する教育指導などを行います。

- 〇六月の主な予定〇●
- 六日 セーフティ教室
- 十日 オークストラ鑑賞教室(二年)
- 十一日 〇十三日 第一回定期テスト
- 十八日 開校記念日 二十日 進路説明会
- 二十五日 〇二十七日 修学旅行
- 六月の生活目標 □
- ・ 意欲的に学習に取り組もう

熱中症に注意!

〔在籍生徒数〕 一学年249名、二学年216名、三学年246名
全校生徒数711名
〔学校住所・電話番号〕
〒182-0035 府中市四谷一丁目二八二七
電話 〇四二(三六四)一八八一

★体育祭を参観された小学校の校長先生から、成長した皆さんの姿に感動したという感想をいただきました。

活躍する八中生

【敬称略】

★陸上競技部★

第76回東京都中学校地域別陸上競技大会

男子東部共通	200m	第5位	23秒91	島崎 要
男子東部2・3年	走幅跳	第4位	5m89cm	伊藤 壮歩
男子東部共通	走高跳	第5位	1m58cm	戸田 大夏
男子東部共通	4×100m	第5位	46秒48	森田 壮歩
女子東部共通	100m	第2位	15秒84	島崎 要
女子東部2年	100m	第6位	13秒77	松川 玖歩
女子東部共通砲丸投		第8位	7m04	高橋 奈々
女子東部共通	4×100m	第5位	53秒96	岩野 心海

朝倉 舞音 森田 葵葉 亀山 陽向 松川 玖歩



◇◆スクール・コミュニティ協議会を実施しました◇◆
府中市では、平成二十六年から全校でスクール・コミュニティ協議会を設置しさまざまな取組を行っています。

スクール・コミュニティ協議会は、学校を中核として、学校を地域に開き、保護者や地域住民等の協力を得ながら、三者が連携してより良い学校づくりを目指す取組を行う組織です。特に、生徒たちの多様な関わりの実現をとおして、健やかに育てるために、授業や部活動等の日常の教育活動への参加・協力の検討・協議



●様々なボランティア活動への参加の検討・協議
●生徒の健全育成についての協議を中心に行います。

五月十日に実施した協議会では、学校経営計画の確認、新標準服改訂スキーム等の検討など大変有意義な協議を行なうことができました。

令和七年度スクール・コミュニティ協議会委員（敬称略）

高野 佳子（保護司会会長）
高野 ひとみ（同窓会代表）
菅原 信吾

（本校十六代PTA会長・前青少対第八地区委員長）
尾崎 哲郎（本校前PTA会長）
今池 真能

（府中市市民活動センタープラッツ）
土屋 広介（本校PTA会長）
丸山 悦子

（地域コーディネーター・青少対第八地区委員長・本校十四代PTA会長）
市川 勉

（地域コーディネーター・四谷コミュニティ協議会会長・保護司）

学校事故対応コーナー No.3 『河川での事故防止』



連載で、学校での事故の対応についてお知らせしています。今回は学校外での水の事故についての事例から事故防止を考えましょう。

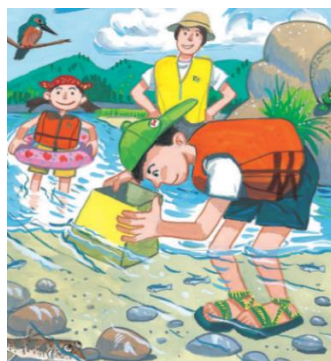
事故に遭わない・起こさない

水の事故に注意！

事故に遭わない・起こさないという気持ちを持ち続けよう！

◇◆次の事例を読んで考えましょう◇◆

中学生のAさんは、毎年夏休みに川遊びをします。生き物が好きなAさんにとっては、魚や虫などたくさん生き物がある川はとても魅力的な場所です。絵のように、今年も川遊びを楽しんでいました。しばらくすると、水かさが増え、流れの速さは、あまり変わらなくなった。水がだんだんと濁ってきました。同時に、足に感じる水の勢いが強くなってきたように感じました。



①「考えましょう」
①水が濁ってきた理由を考えよう。

②足に感じる水の勢いが強くなってきたのはなぜですか。

③あなたがAさんだったら、この後、どのような行動を起こしますか。理由も合わせて答えましょう。

水に関わる子供の事故の約6割は川や湖で起こっています。ひとたび水辺の事故に遭遇すると、こうした楽しさはすべて奪われてしまいます。川や水辺、プールなど、水にひそむさまざまな危険性を知っておくことが大切です。子供だけで、川や水辺で活動することがないようしましょう。

夏が近づき、プールや海などの水辺で活動することが多くなってきました。いろいろな体験をする絶好のチャンスですが、常に「事故に遭わない、事故を起こさない」この気持ちをもち続けることが大切です。万が一、危険な場面に遭遇したり、少しでも危険であると感じたりしたときは、躊躇（ちゅうちよ）せず危険な場所から速やかに離れ、すぐに、大人に報告しましょう。

（考えましょう）の答えは次号に掲載します。）

参考資料：公益財団法人 河川財団「水辺の安全ハンドブック」